

4 考 察

(1) 三者(児童・保護者・教師)共通項目

- ・ 昨年度と比較して、「4 しっかりあいさつ」、「5 人の話をしっかり聞く」、「9 楽しくわかりやすい授業」、「11 家庭学習・適切な課題」の項目で、「とても思う・少し思う」の回答が増加している。普段の学校生活や授業をとおして、「気持ちの良いあいさつ」や話し合い活動、指導方法や教材・教具の工夫など校内外の教員研修をとおして指導面の向上を図ってきた結果が表れてきている。さらに保護者の評価が得られるように引き続き力量向上を図る必要があるとともに、公開授業等の場や学力検査の結果等をとおして、指導の成果が保護者に伝えていけるとよいと考える。
- ・ 昨年度と比較して、「3 通学団で仲良く」、「7 忘れ物をしない」、「12 行事は楽しい」の項目で、「とても思う」の回答が児童・保護者・教職員ともに減少している。「通学団」については、登下校時のトラブルが見られたことから、根気よく指導を継続していくとともに、付き添い下校や校外指導パトロールの回数を増やす等の検討をしていく必要があると考える。「忘れ物」については、各担任の方でより細かく個別指導をしていただいているが故に、昨年度よりも指導をする場面が多くなったため、忘れ物が多いととらえている教職員が増えたのではないかと考える。しかし、指導をすればするほど、忘れ物の減少につながるので、今後も引き続き指導をしていくことが大切である。「行事」については、これまで精選や内容の見直しを図ってきた。その結果、やや物足りなさを感じているのではないかと考える。しかし、質的向上を図ろうとすればするほど、多くの練習や準備に時間を費やしたり、児童への負担が増加することは明らかである。もちろん、行事をとおして学ぶことができることはたくさんあるので、引き続き内容の見直しを図りつつ、行事の準備や練習のために、教科の授業時数にしわ寄せがくるといことがないようにしながら、最小限の労力で最大限の効果が得られるようなよりよい行事のあり方について検討をしていきたい。また、学校行事についての保護者の協力と理解を引き続き得られるように努めていくことも大切である。
- ・ 「1 学校が楽しい」、「2 学級で仲良く」の項目については、昨年度と比較して、児童の「とても思う・少し思う」の回答が増加している。反対に、教職員や保護者の「とても思う」の回答が減少している。このことから、児童のほとんどが、学校生活は楽しく、友だちと仲良くできていると感じていても、周囲の大人からみると、まだまだ物足りなさを感じているといえる。子どもたちと触れ合う時間をさらに確保するように努め、一人一人の子どもの様子をしっかりと見守っていくように心がけ、肯定的に受け止められるようにしていくことが必要である。
- ・ 「6 履き物の整頓」については、児童と教職員の評価は高いものの、保護者の評価はまだ厳しいといえる。いつでもどの場面においても、「履き物の整頓」に心がけられるようにさらに、児童に働きかけていく必要があると考える。
- ・ 「8 交通ルールを守る」については、教職員の評価は高いものの、児童と保護者の評価は、昨年度よりやや低くなっている。引き続き機会を捉えて、指導していくことが大切であると考ええる。
- ・ 「10 子どもの相談にきちんと対応」については、教職員の評価は高いものの、児童と保護者の評価は、教師の評価より下回っていることから、さらに一人一人に対して、きめ細やかな

対応が必要であると考える。

(2) 二者(保護者・教師)共通項目

- ・ これまで多くの項目で年を経る毎に保護者から「とても思う・少し思う」のプラスの回答が増えつつあった。しかし、今年度は減少に転じている項目が増えてきている。これは、現状に満足することなく、さらによりよい教育を望んでいる保護者の期待の表れとであると捉えられる。さらに情報発信・家庭との連絡を密にしていながら学校の取り組み状況を保護者に知らせ、学校と保護者が同じベクトルで進んでいくようにしていかななくてはならない。

(3) 二者(児童・保護者)共通項目

- ・ 「21 毎日朝ご飯」、「22 早寝早起き」の項目は、学年が上がるに従ってプラスの回答が徐々に少なくなっている。規則正しい生活リズムの確立とともに、食育・保健便り・学校保健委員会などで睡眠や朝食の重要性をさらに児童・保護者に訴えていくことが大切と考える。

(4) 児童のみの項目

- ・ 23～27の項目は年々プラス評価が増加している。実際の子どもたちの姿を見ても、素直で落ち着いた学校生活である。現在の状態を認めながら、さらに高い目標を目指していくように声かけをしていきたい。
- ・ 自分用のスマートフォンなど、インターネットに繋がる機器を所持しているかの調査では、全児童の44%が所持していることが明らかとなった。学年が進むにつれて多くなり、5・6年生で6割近くの児童が所持している。4年生ですでに半数近くの児童が所持をしていることから、できるだけ高学年になるまでに、安全で正しく使用できるようにするために情報モラル教育を実施していくことが必要であると考えられる。